

EU Indicators

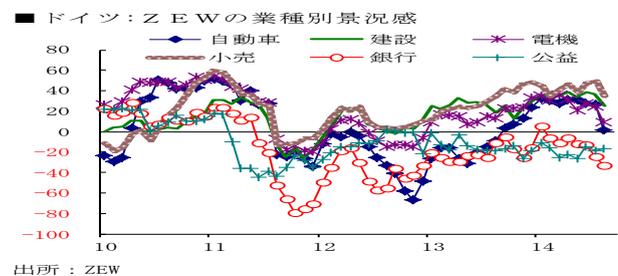
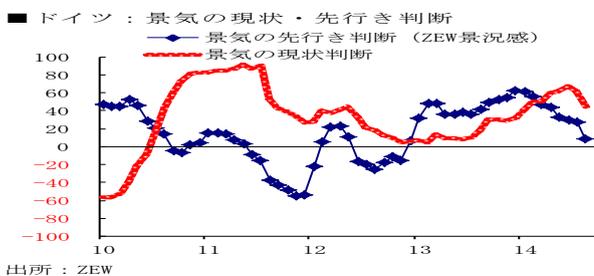
欧州経済指標コメント：8月ドイツZEW景況感

発表日：2014年8月13日(水)

～ドイツ景気にもプーチンの影～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

- 12日に発表された8月のドイツのZEW景況感指数（市場参加者による半年先の景況感）は8.6と前月の27.1から大幅に低下した。今年に入って8ヶ月連続の低下で、長期平均（24.7）を下回り、前回ドイツ景気がマイナス成長となった2012年12月（6.9）以来の水準に落ち込んだ。
- 調査票の回答期間は7月28日～8月11日。ウクライナ情勢が緊迫化し、DAX株価指数が大きく調整した局面と重なり、市場参加者の景況悪化につながった。調査期間の終盤に公表された8月6日の製造業受注、7日の鉱工業生産が相次いで大幅に下振れしたことも、業況悪化に拍車を掛けた模様だ。ハードデータの悪化がソフトデータの一段の悪化を引き起こした可能性がある。
- 現状判断も前月：61.8→今月：44.3に大幅低下。改善超の回答が依然として上回り、歴史的にみれば比較的高水準を維持しているが、2ヶ月連続で低下し、足許の景況判断も悪化し始めている。
- 国別の先行き景況感は、ユーロ圏（前月から24.4ポイント悪化）が前月から大幅に悪化。域内の調査対象国は、ドイツ（同18.5ポイント悪化）、フランス（同13.0ポイント悪化）、イタリア（同15.0ポイント悪化）が揃って悪化したが、ユーロ圏全体の悪化幅がこれらを上回った。ウクライナ情勢の影響が大きい中東欧やバルト諸国の景気の先行きに対して不透明感が広がっていることが示唆される。また、このところ経済指標が総じて堅調な米国景気についても、前月から比較的大幅に景況が悪化（同14.7ポイント悪化）。市場心理に引きずられ、ややナーバスに傾き過ぎている印象がある。
- 業種別の業況判断は、公益を除く全業種が前月から悪化。一般機械（同26.9ポイント悪化）、自動車（同25.1ポイント悪化）、化学（同23.5ポイント悪化）、鉄鋼（同21.4ポイント悪化）、電気（同15.4ポイント悪化）の順に悪化幅が大きい。輸出業種が振るわないが、ユーロ高に歯止めが掛かり、米中景気の回復を示唆する指標も相次いでおり、やはりウクライナ情勢が重石となった可能性が高い。



■ ドイツ企業景況感（季節調整済み）

	2013		2014		2014							
	3Q	4Q	1Q	2Q	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
ZEW景況感（先行き）	42.6	56.5	54.7	35.4	61.7	55.7	46.6	43.2	33.1	29.8	27.1	8.6
現状指数	19.8	30.3	47.5	63.1	41.2	50.0	51.3	59.5	62.1	67.7	61.8	44.3
Ifo景況感（総合）	107.2	108.8	110.9	110.4	110.6	111.3	110.7	111.2	110.4	109.7	108.0	—
現状指数	111.2	111.7	114.0	115.0	112.4	114.4	115.2	115.3	114.8	114.8	112.9	—
先行き指数	103.4	106.0	107.8	106.0	108.8	108.2	106.3	107.2	106.1	104.8	103.4	—
PMI製造業指数	51.2	52.9	55.0	52.8	56.5	54.8	53.7	54.1	52.3	52.0	52.9	—
サービス業指数	52.6	54.0	54.0	55.1	53.1	55.9	53.0	54.7	56.0	54.6	56.7	—

出所：ZEW、Ifo、Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であると限りません。